

「善意の心が車いす」に!

地域の善意 車いすに

小樽協会病院と双葉高校

3年がかりリングプル510キロ



穴田生徒会長（右）と小島さん（右から2番目）から、車いすを受け取る大畑会長（左）

市内住ノ江地区にある小樽協会病院と双葉高校が三年前から集め始めたリングプルがこのほど目

標量に達し、車いすに交換された。地域一体の思いを多くの人が後押しし、結実した。地域に貢献できる病院を目指したいと、同病院職員の小島猛さんの呼びかけで、二〇〇三年六月から始まった。双葉高校にも声をかけ、生徒会活動の一環として行われるようになった。

同病院では、空のペットボトルで回収箱をつくり、外来窓口や病棟に設置。患者や見舞いに来る人に協力を求めた。同校も生徒に回収を呼びかけたほか、ボランティア清掃で拾った空き缶からリングプルを取るなどして、回収を進めた。今年五月までに五百十キ分のリングプルが集まり、車いす一台と交換した。一日に贈呈式が行われ、大畑昌三・住ノ江町内会長に車いすが手渡された。

同校の穴田学・生徒会長は「僕らだけじゃなく、先輩たちの努力もあって、集めることができたい」と話した。小島さんは「呼びかけに応じてくれた双葉高校や、協力してくれたすべての方に感謝したい」とうれしそうだった。大畑会長は「既にも使用を希望しているお年寄りもいる。必ず役立てることを約束します」と話していた。

同病院と同校は二台目を目標し、今後も回収を続けるという。
(奥天卓也)

2006年(平成 18年)6月7日 水曜日

【北海道新聞 小樽・後志版に掲載されました】

患者さま・家族の方および職員・双葉高校生徒の皆さまに心から感謝いたします。

本当にありがとうございました。

これからも継続していきますので、「**リングプルの和**」を広げるため今後もご協力をお願いいたします。

小樽協会病院 院内広報誌委員会